健軍商店街におけるAIデマンドタクシー実証実験について

健軍商店街　理事長　有働栄一

健軍商店街概要

健軍商店街（愛称ピアクレス）は熊本市東部の市電、健軍町電停から南へ延びる280mほどの商店街である。

商店街を中心とする近隣の小学校区で直接の商圏と考えられるのは7校区あり、合計人口は約55,000人ほどである。

校区	人口	65歳以上高齢化率
若葉校区	5,260	29.3%
泉ヶ丘校区	6,396	30.8%
秋津校区	12,356	27.1%
健軍東校区	3,848	26.7%
桜木校区	6,778	26.4%
健軍校区	12,041	24.7%
東町校区	8,338	24.1%

健軍商店街周辺の公共交通

熊本市電　健軍町

健軍町電停は熊本市電駅の中でも乗降客数が3位と多い。
しかし停留所などのインフラ整備が追い付いてなく、朝の混雑時には停留所に入りきれない人達が道路上にはみ出すことも往々にして生じている。

順位	駅名	乗降客数（人/日）
1	通町筋	7,480
2	熊本駅前	7,448
3	健軍町	5,776
4	辛島町	4,746
5	新水前寺駅前	4,709

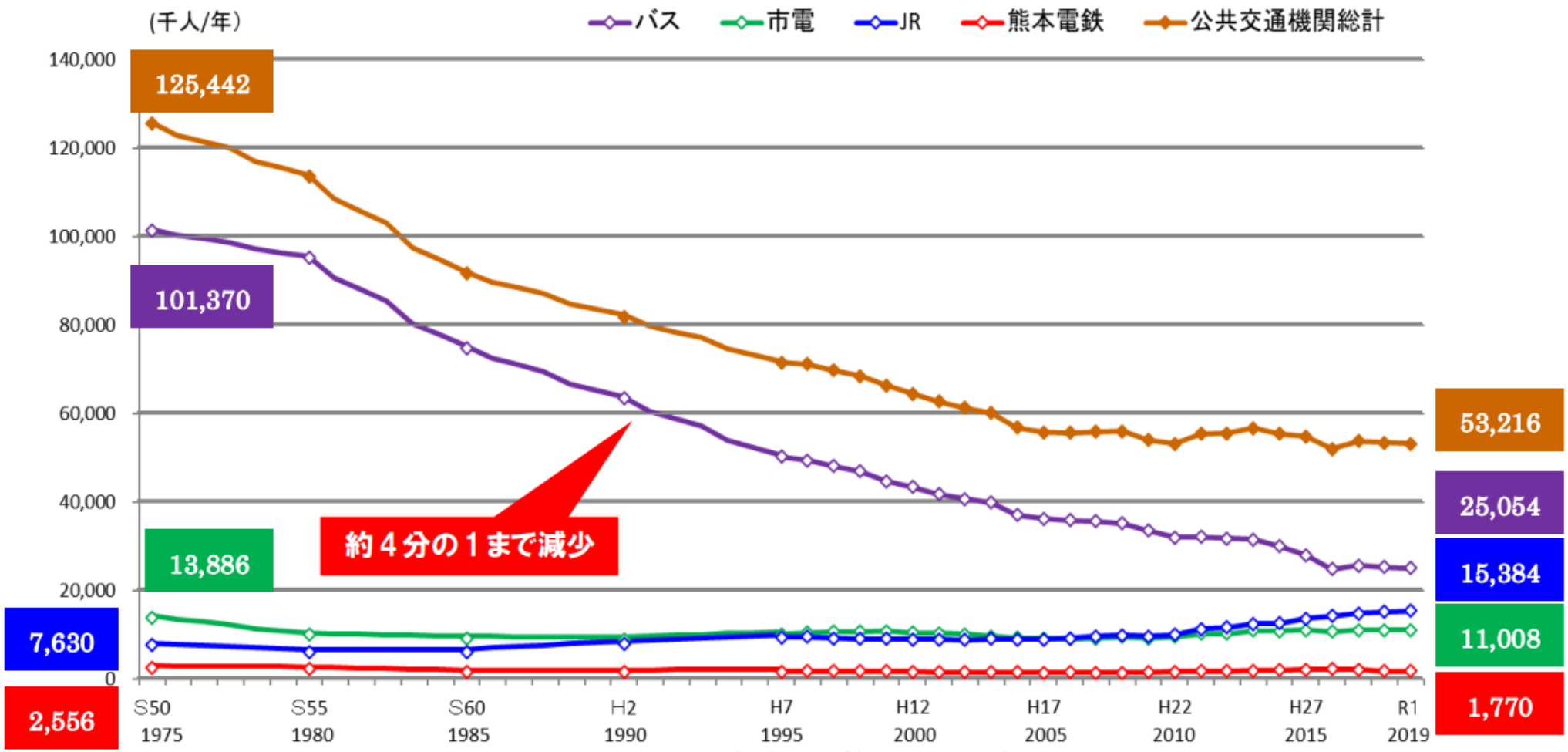
バス路線

熊本市のバス路線は中心部（桜町バスターミナル）から放射線状に各地に伸びているが、周辺拠点同士を結ぶ路線は乏しい。

例えば、「健軍電停前停留所」には産交バス6路線、熊本バス6路線、熊本都市バス1路線の計13路線が通るが、それぞれの運行頻度は少ない。例を挙げれば、停留所から約1k北の熊本市民病院へは熊本都市バス1路線があるが、朝の時間帯の2便/１時間、程度を除けばほとんどの時間帯で1時間に1便でしかない。これではほとんど「使い物にならない」交通機関ではないかと思う。

熊本市交通機関の利用者推移

熊本市路線バスの利用者は昭和50年に比べて約１/4まで減少している。ここ15年では3割減少している。



▲公共交通利用者数の推移（再掲）

資料）統計資料及び各交通事業者提供資料

健軍商店街のコミュニティ施設
兼タクシー乗り場「よって館ね」

「よって館ね」は健康相談や習い事教室、絵本やまんが図書室などを備え、来街者の寄合場であるとともに、（株）タクルーと組んでタクシーによる宅配事業やタクシー乗り場として１５年以上継続している施設である。

特にタクシー乗り場として、高齢者を中心に月に1,200人ほどが利用している。

今回の実証実験ではアプリを扱えない高齢者には「よって館ね」の従業員が代わりに予約を取ったりしていた。
今回「よって館ね」の従業員に聞き取りを行ってみた。

実証実験への意見

●今回の実証実験では利用できる範囲が狭いので不満の声があった。

●一度の予約で複数人の予約ができないのは不便との声あり。

●基本的に乗り合いがいやな人がいる（特に女性）

●AIタクシーを呼ぶ作業は難しい。

●個人情報を登録してまでID,パスワードを得たくない。

AIデマンドタクシーへの期待と課題

◆熊本市の公共交通機関は多くの問題を抱え、その結果として車社会を招き、全国の政令市中でも最悪レベルの交通渋滞が常態化している。その中で車などの移動手段を持たない高齢者は日々の買い物にもタクシーを使わざるを得なくなっている。

公共交通問題の解決策としてのAIデマンドタクシーの活用は大いに期待され得るものだと思う。

ただし、下記の課題があり、それをいかに克服するかがカギとなるであろう。

◆料金は事業者が補助金なしで継続可能なものにすべき

◆エリアはできるだけ広く定めたほうがよい。

◆利用に際してはID,パスワードの発行などの煩わしさは極力減らしてほしい。

◆運行車両はワゴン型やマイクロバス型などで、乗り合い前提の車両が望ましい。